

基本的方向1 子どもの姿



目 標

自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

未来へ向かって成長し、未来を担う子どもに、これからの社会をよりよく生きていく力を育むことは、とても重要なことです。

将来の予測が明確にならない現在の社会にあっては、自らの生涯を切り拓く力強さと、他人と協働してよりよい社会を築こうとする頼もしさが必要です。このため、強い意志をもって主体的に考え行動する力と、他と協調しつつともに社会を支える力を育み、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てます。

《施策一覧》

1-1	自分を大切にし、他人を思いやる気持ちを養い、豊かな心を育む	P. 8-13
1-1-1	人と関わる力を身に付ける活動の充実	P. 9
1-1-2	命を大切にする教育の推進	P. 10
1-1-3	道徳教育の充実	P. 11
1-1-4	体験活動の充実	P. 12
1-1-5	読書教育の推進	P. 13
1-2	基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、活用する力を育成する	P. 14-16
1-2-1	確かな学力を育成する取り組みの推進	P. 15
1-3	健康に関する意識を高め、健やかな体を育成する	P. 17-21
1-3-1	望ましい生活習慣を身に付ける取り組みの推進	P. 18
1-3-2	食育の推進	P. 19
1-3-3	体力向上の取り組みの推進	P. 20
1-4	社会的な問題に関する認識を深め、意欲と実践力を育む	P. 22-26
1-4-1	環境学習の充実	P. 23
1-4-2	情報教育の推進	P. 24
1-4-3	キャリア教育の推進	P. 25
1-4-4	防災教育の推進	P. 26
1-5	日本や郷土市川の歴史や文化を学び、国際社会の中で生きる力を育む	P. 27-31
1-5-1	歴史や文化に関する教育の推進	P. 28
1-5-2	外国語教育・国際理解教育の推進	P. 30

◇施策の方向1-1 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちを
養い、豊かな心を育む

○重点事業の点検

《施策1-1-3関連》

事業名	創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)
事業概要	豊かな心を育てるために、教育活動全体を通して道徳教育に取り組む学校づくりを支援する。
計画 (具体的な取り組み)	「市川の学校教育三ヵ年計画」をもとに、豊かな心の教育を推進する。地域人材の活用や授業公開等による道徳教育を推進し、いじめ根絶の取り組み、ブロック連携によるあいさつ運動等の拡充を図る。
実績 (活動及び効果)	学校評価の指標を活用した実効性のある取り組みを進め、「あいさつ運動」の励行や「いじめ撲滅運動」の推進、道徳教育の充実など、「豊かな心」を育む教育を推進した。中学校ブロックの取り組みでは小・中学校に加え、幼稚園や高等学校との連携についても充実が図られた。
進捗	A

《施策1-1-5関連》

事業名	学校図書館支援センター事業 (学校図書館と公共図書館とのネットワークの活用)
事業概要	学校図書館を支援するスタッフを学校に派遣するとともに、学校図書館及び公共図書館の図書資料を共有して利用する情報・物流ネットワークを運営し、学校図書館機能の充実を図る。
計画 (具体的な取り組み)	学校図書館と公共図書館の連携を図るとともに、教育課程全般を通して、学校図書館の活用が推進されるように、学校図書館アドバイザーを派遣したり、学校図書館支援センター通信を発行したりする。
実績 (活動及び効果)	研究協力校による公開授業だけでなく、多くの学校で学校図書館を活用した授業研究が行われた。また、初若年層教諭に対して、自主的に研修会を計画するなど、学校ごとの工夫が見られ、図書資料だけでなく、学校司書をも有効に活用した授業の推進が図られた。
進捗	A

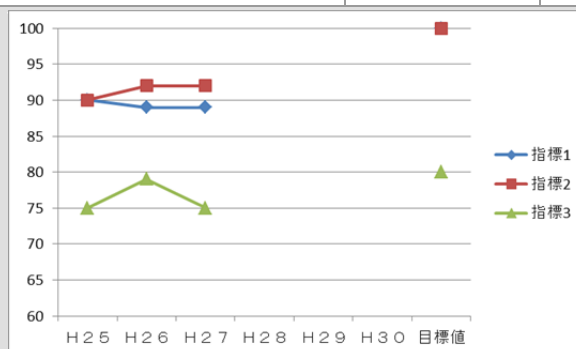
1-1-1 人と関わる力を身に付ける活動の充実

人と関わる力を身に付け、望ましい人間関係をつくるために、学校生活や地域活動などを通して、相手の話をよく聞いたり、自分の思いを相手に伝えたりして、たがいの価値観を認め合う力を育成します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「進んで挨拶をする」と回答する児童生徒の割合	89%	89%	100%
2	「人の話や考えをよく聞くことができる」と回答する児童生徒の割合	92%	92%	100%
3	「自分の考えや思いを伝えることができる」と回答する児童生徒の割合	79%	75%	80%



2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。
児童生徒が人と関わる力を身に付け、望ましい人間関係をつくることができるようになるために、言語活動の指導強化に努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、人との関わりを重視した学校づくりを支援する。
青少年指導者育成事業	小学生、中学生、高校生及び大人向けの青少年指導者育成講習会を開催し、青少年指導者を育成することで、地域の青少年育成活動の活性化を図る。

1-1-2 命を大切にする教育の推進

自分の命はもちろん、他人の命も大切にする意識を育みます。また、自分の良いところをたくさん見つけ、それを伸ばしていくことで、自分はかけがえのない存在と認めることのできる教育を進めます。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「自分には良いところがある」と回答する児童生徒の割合	70%	69%	75%
2	「友だちや動植物を大切にする気持ちをもっている」と回答する児童生徒の割合	97%	96%	100%

年度	指標1 (%)	指標2 (%)
H25	69	95
H26	70	97
H27	69	96
H28		
H29		
H30 (目標)	75	100

2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。
学校での教育活動全体を通して、生命を大切にする意識の向上に努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、命を大切にする教育や自己肯定感を高める教育を重視した学校づくりを支援する。
薬物乱用防止の取り組み (健康教育)	薬物乱用を防止するために、薬物の恐ろしさを正しく理解し、薬物に関する正しい知識を身に付けることができるよう、乱用防止教室などの充実を図る。

1-1-3 道徳教育の充実

道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うため、「道徳の時間」を中心に、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の質の向上を図ります。また、人権意識を高め、いじめを許さない心を育成します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)	
1	家庭・地域と協力して道徳教育を進めた学校の割合	授業公開	78%	85%	90%
		人材活用	100%	100%	100%
2	学校におけるいじめの認知件数※	283件	303件	390件	

指標1(授業公開) 指標1(人材活用)

指標2

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

豊かな心の育成に努め、いじめについては学校との連携を密にしながら組織的に未然防止に取り組み、認知された場合には適切な初期対応と早期解決を図る。※

※認知されたいじめへの対応については、施策「3-3-4 いじめ、暴力行為などへの対応の強化」成果指標1「いじめの解消率」を参照

《参考》

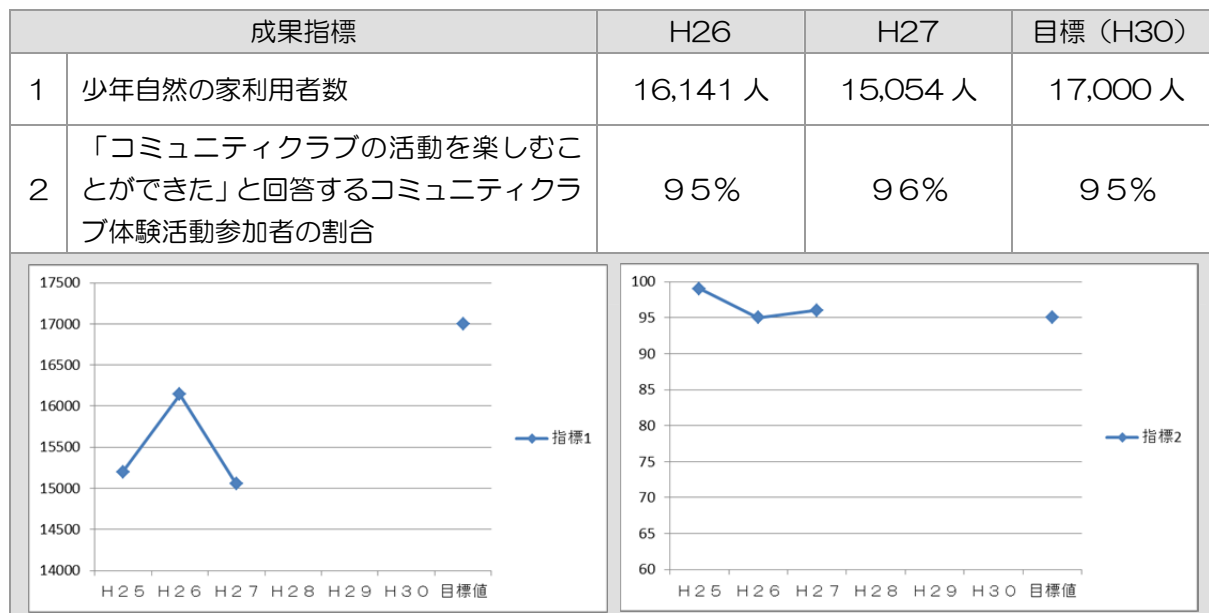
主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
学校支援実践講座事業	いじめ問題をテーマとした社会人権講座を行うとともに、受講者が地域支援者となり、小中学生との交流会を実施し、学校が行ういじめ未然防止の取り組みを支援する。

1-1-4 体験活動の充実

学校や地域社会において、異年齢の子どもとの交流、ボランティア、福祉体験活動、集団宿泊活動、自然体験活動、文化芸術体験活動など体験活動の充実を図ります。

○施策の評価

1. 成果指標



2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

《参考》

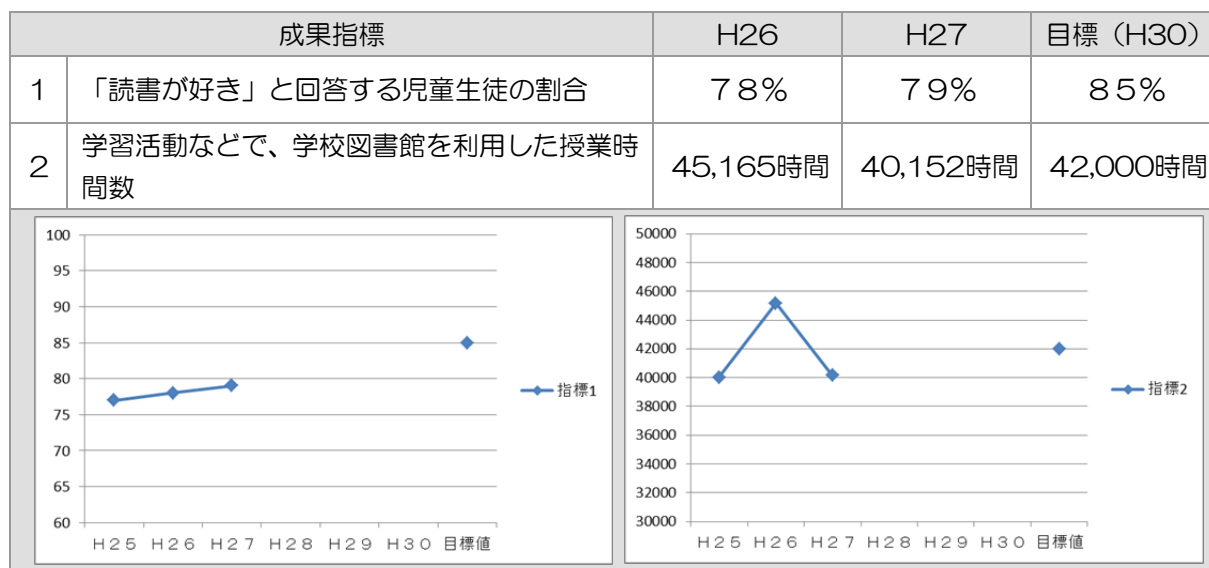
主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三カ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、体験活動を重視した学校づくりを支援する。
コミュニティークラブ事業	地域性を活かしながら「遊び」を通して、子どもたちが主体的に関わる様々な体験活動や豊かな対人関係を築いていくために、異年齢交流・世代間交流が図られる事業を実施している。
体験学習事業(農業体験)	市内にある親子ふれあい農園を活用して、稲作体験や畑作体験の機会を提供する。
野外活動	少年自然の家を利用する団体が行う野外活動を支援するとともに、野外活動を含む行事を主催して、野外体験活動を推進する。

1-1-5 読書教育の推進

豊かな心を育むために、読書コミュニティをはじめとする、多様な読書活動や学習活動での図書の活用など、幼児期からの読書教育を推進します。また、図書館の役割が重要であることから、図書館資料の整備、学校図書館相互や公共図書館とのネットワークの積極的な活用など、図書館機能の充実を図ります。

○施策の評価

1. 成果指標



2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三カ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、読書活動を重視した学校づくりを支援する。
学校司書配置事業 (H27 事業名一部変更)	正規の学校司書(常勤)が配置されていない学校に非常勤職員を配置し、学校図書館の充実と、図書館を活用した教育の推進を図る。
読書コミュニティの推進	家庭・学校・地域が連携し、読書活動を核としたさまざまな活動を通して、児童生徒の健全育成を図ることができるよう、ネットワーク構築の支援を行う。

◇施策の方向1-2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、
活用する力を育成する

○重点事業の点検

《施策1-2-1 関連》

事業名	校内塾・まなびくらぶ事業
事業概要	基礎的・基本的な内容を放課後及び長期休業中等において補習を実施することにより、学力の向上を図る。
計画 (具体的な取り組み)	全校で実施することに加え大規模校等のニーズに応えた事業の充実・拡充を図っていく。
実績 (活動及び効果)	19学級以上の大規模校に増額配当を行い、まなびサポーターの配置人数、実施日数、実施時間ともに拡充を図ることができた。2月末までにのべ55,500人が参加した。「学習したことがわかるようになった」と感じている児童生徒の割合が85%となった。
進捗	A

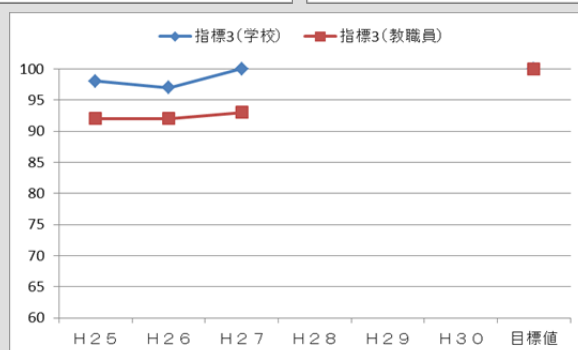
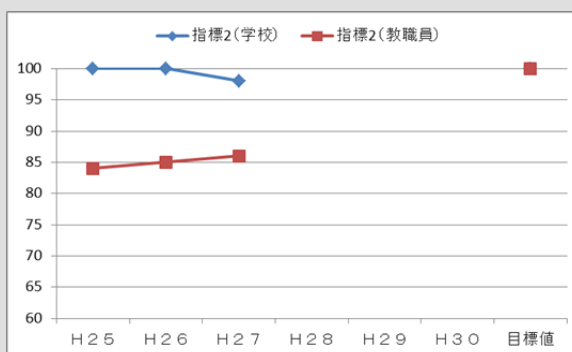
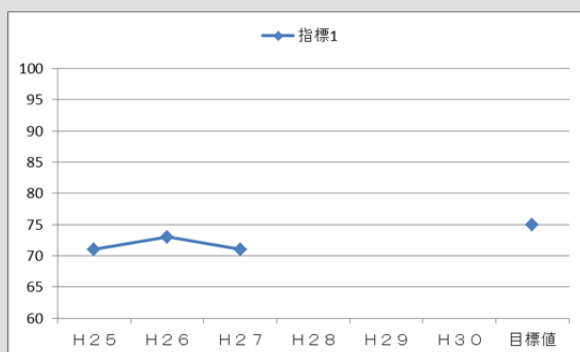
1-2-1 確かな学力を育成する取り組みの推進

基礎的・基本的な内容を確実に習得し、個に応じた学びを充実させるために、指導方法の改善と学習環境の整備に取り組みます。また、身に付けた知識や技能を学習や生活に活用していく力を高めるために、問題解決型の学習をさらに充実します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)	
1	「学校の勉強が楽しい」と回答する児童生徒の割合	73%	71%	75%	
2	問題解決的な学習を重視して、年間を通して、言語活動や体験活動を意欲的に授業に取り入れている学校・教職員の割合	学校	100%	98%	100%
		教職員	85%	86%	100%
3	児童生徒の実態に応じ、生徒指導の機能を生かした授業づくりに取り組んでいる学校・教職員の割合	学校	97%	100%	100%
		教職員	92%	93%	100%



2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	確かな学力を育成するために、問題解決型の学習を重視したり、生徒指導の機能を生かした授業づくりを進めたりする学校づくりを支援する。
少人数学習等担当補助教員事業	小中学校に補助教員を派遣し、少人数指導やチームティーチングなど、わかりやすい授業やきめ細やかな指導を充実する。
学校図書館支援センター事業 (文部科学省委託による学校図書館事業)	学校図書館の機能の高度化を図り、学校図書館を活用した学習活動の効果的な指導に関する研究を進める。
学校環境整備事業 (新しい教材やソフトウェアの導入)	新しい学校教材などの導入を図り、学校の環境整備を関係所管課と協力して進める。
コンピューター教育振興事業	学習支援システムを活用し、児童生徒の学習の充実を図る。
各種作品展事業 (児童生徒科学展、こども作品展、新聞展)	児童生徒が学習の成果を発表できる機会を作品展などとして設け、表現力や感性の育成を図る。
音楽会活動事業 (児童生徒音楽会、地区別音楽会、音楽フェスティバル)	児童生徒が学習の成果を発表できる機会を音楽会として設け、表現力や感性の育成を図る。

◇施策の方向1-3 健康に関する意識を高め、健やかな体を育成する

○重点事業の点検

《施策1-3-3関連》

事業名	体力向上推進事業
事業概要	児童生徒の体力向上を目指し、運動生活を豊かにすることを基本とした体力づくりを推進し、市川市運動能力証を交付して、体力向上への意欲の向上を図る。また、児童・生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わい、活動欲求に応え、生涯にわたって充実したスポーツライフを実現するために、トップアスリートとの交流や地域の指導者の参画を求め、部活動や部活動に準じるクラブの振興を図る。
計画 (具体的な取り組み)	小学生の体力向上を目指し、1学期に『走る、跳ぶ』ことを基本とした単元を組み入れるとともに、小中体連主催の大会行事と体育の授業を相互に関連させながら、教育活動全体を通して基礎体力の向上に向けた取り組みを行う。 また、部活動や部活動に準じるクラブの振興を図るため、積極的に地域指導者の参画を求める。さらに、トップアスリートとの交流や企業との連携による体力向上の啓発を行う。
実績 (活動及び効果)	小学校においては、年間指導計画の提出時に、学習指導要領に則って作成されているか確認し助言を行った。 新体力テスト測定及び指導方法等の実技研修会を実施し、参加者の8割が研修会の内容を活用したいと強く感じる事ができた。 地域指導者による部活動や部活動に準じるクラブの支援として、51人の指導者の協力を得ることができた。また企業との連携による授業として、小学校のラグビー、ベースボールチャレンジで各10校、中学校の柔道で3校、それぞれ展開することができた。
進捗	B

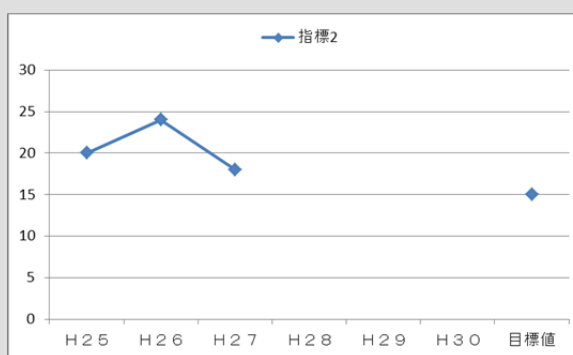
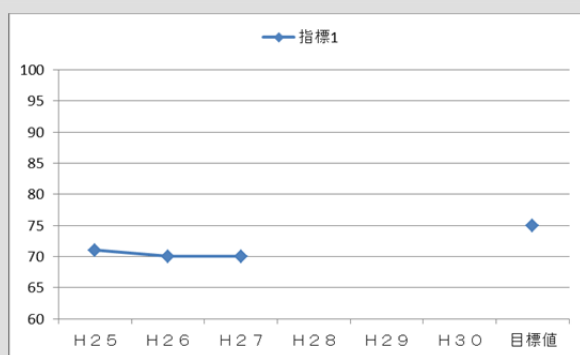
1-3-1 望ましい生活習慣を身に付ける取り組みの推進

健全な生活習慣を身に付けるために、検診や調査に基づき、一人一人の実態に応じた指導・支援を行います。また、家庭・学校が一体となって、「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣を身に付ける取り組みを推進します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「早寝・早起き・朝ごはんを実践している」と回答する児童生徒の割合	70%	70%	75%
2	小児生活習慣病予防検診の児童生徒の有所見率※	24%	18%	15%



※有所見率…肥満度・腹囲・血圧・血糖・コレステロール・中性脂肪において何らかの所見のある児童生徒の割合

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
ヘルシースクール推進事業 (ライフスタイル調査)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図るため「体力づくり」望ましい生活リズムの確立」「食に関する指導の充実」について調査を行い、市全体の傾向や学校、個人の生活改善に役立てる。
小児生活習慣病予防検診	児童生徒一人一人に対応した健康指導の充実を図るために、科学的・医学的分析に基づく小児生活習慣病予防検診を行うことにより、生活習慣病の初期段階での予防に取り組む。
すこやか口腔検診	児童生徒の口の中をさまざまな角度から調べる検診を通して、咀嚼の実態を把握し、口腔機能の維持・増進を図る。

1-3-2 食育の推進

調理実習や農業体験などの体験的な活動を通して、食と健康に関する興味関心を高めます。また、食品の安全性などの知識を習得し、食に関する自己管理能力の育成を推進します。さらに、給食の時間をはじめ、授業や委員会活動などに栄養教諭や栄養職員が積極的にかかわり、「食」に関する指導の全体計画のもと学校教育活動全体で取り組むとともに、家庭と連携して望ましい食習慣を身に付ける取り組みを進めます。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「給食を楽しんで食べている」と回答する児童生徒の割合	92%	92%	95%
2	「主食、主菜、副菜がそろった食事をしている」と回答する児童生徒の割合	88%	89%	90%

Line graph showing the progress of two indicators from H25 to H30. The Y-axis represents the percentage (60-100). The X-axis represents the fiscal year (H25 to H30) and the target value. Indicator 1 (blue diamonds) shows values: H25 (90%), H26 (92%), H27 (92%), H30 (95%). Indicator 2 (red squares) shows values: H25 (87%), H26 (88%), H27 (89%), H30 (90%).

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
ヘルシースクール推進事業 (ヘルシースクールプラン・食育)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図る中、各学校が自校の実態に応じた食に関する指導の充実に家庭・地域との連携を図りながら取り組む。
学校給食運営事業	食に関する指導と学校給食の管理をより一体的なものにしていくために、給食の食器具や施設設備の充実を図る。また、市川市立学校給食検討委員会などにおいて、広く意見聴取することで、食育や学校給食運営の改善を図る。
教職員研修事業 (栄養教諭・学校栄養職員研修会)	学校において、食と健康に関する指導の中心的役割を担う給食主任及び栄養教諭・学校栄養職員の合同研修会を開催し、給食主任及び栄養教諭・学校栄養職員を中心とした校内の研修体制の充実を図る。

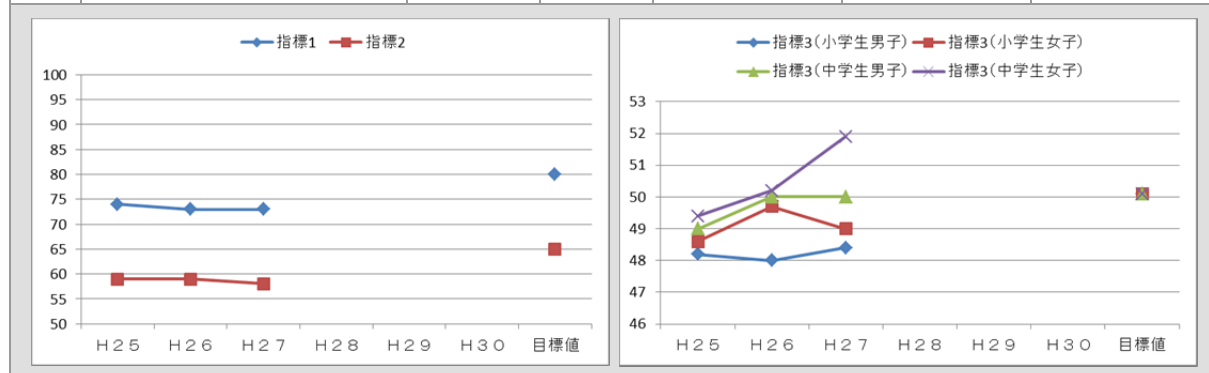
1-3-3 体力向上の取り組みの推進

子どもの体力向上を図るため、運動量が十分確保された体育の授業を実施し、休み時間には外遊びができる環境づくりに取り組めます。また、運動部活動の充実を図るとともに、地域のスポーツ指導者などと連携し、子どもが積極的に運動やスポーツに親しむ環境づくりを推進します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標			H26	H27	目標 (H30)	
1	「運動が好き」と回答する児童生徒の割合		73%	73%	80%	
2	「休み時間や昼休みに外遊びをしている」と回答する児童生徒の割合		59%	58%	65%	
3	新体力テストの得点平均	小学生	男子	48.0点	48.4点	50.1点
			女子	49.7点	49.0点	50.1点
		中学生	男子	50.0点	50.0点	50.1点
			女子	50.2点	51.9点	50.1点



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

今後も、学校として児童生徒が体を動かす環境を整え、運動の楽しさを味わう機会を持たせるように努める。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
ヘルシースクール推進事業 (新体カテスト)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図ることができるようにする中、新体カテストの結果を分析することにより、各学校が子どもたちの体力の現状を把握するとともに、体力づくりに向けた取り組み結果の検証に役立てる。
ヘルシースクール推進事業 (ヘルシースクールプラン・体カづくり)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図る中、「体カづくり」に関わる内容として、場所と時間の確保や具体的な取り組み内容を計画するとともに、数値目標を掲げることで運動やスポーツに親しむ機会の充実に取り組む。

◇施策の方向1-4 社会的な問題に関する認識を深め、意欲と実践力を育む

○重点事業の点検

《施策1-4-2 関連》

事業名	学校情報化研究事業（情報モラルに関わる研修の充実）
事業概要	教職員を対象に、児童生徒が情報や情報手段を適切に活用できるよう、情報モラル教育を推進する。
計画 （具体的な取り組み）	情報モラル教育研修会の未受講教員を対象として、情報モラル教育研修会を計画的に実施する。
実績 （活動及び効果）	情報モラル教育研修会として、未受講教員を対象に「ネット社会の歩き方講師養成セミナー」を開催。受講者が各学校の情報モラル教育の中心となって推進できる内容で実施した。
進捗	B

《施策1-4-4 関連》

事業名	安全・安心な学校づくりの推進 （セーフティスクールプランの作成及び活用）
事業概要	児童生徒の「生活安全」「交通安全」「災害安全」についての振興を図る。児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、学校安全の取り組みを計画的に推進する。
計画 （具体的な取り組み）	児童生徒の安全・安心の確保に向けて、セーフティスクールプランを作成し、各学校の実情に合った取り組みの継続を図る。 登下校や校外での交通安全が確保されるよう、研修会等で指導の強化を図る。 防災教育を発達段階に応じて計画的・継続的に推進できるよう、情報・資料の収集や提供に努める。
実績 （活動及び効果）	セーフティスクールプランの作成、取り組みの実践、中間報告、年度末報告等、PDCAサイクルによる計画的な取り組みを支援し、63%の学校がすべての項目を実施することができた。 交通安全に関する指導については、定期的に市内の状況を周知し、指導の徹底を図った。 安全主任研修会において、専門家を講師とした遊具の点検方法等の講習会を開催し、安全安心な学校づくりを推進した。
進捗	B

※セーフティスクールプラン…各学校で安全教育・安全管理・組織的活動についての取り組みを年度当初に計画し、進捗を含め年間2回、22項目を4段階で評価する

1-4-1 環境学習の充実

環境についての理解を深め、自らの生活の中で環境を大切にする姿勢が身に付くよう、体験的な環境学習の充実を図ります。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「環境のことを考えた行動をしている」と回答する児童生徒の割合	78%	81%	80%

年度	割合 (%)
H25	77
H26	78
H27	81
H30 (目標)	80

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
環境学習の推進	各学校における環境保全、省エネ省資源活動に関する取り組みを推進する。

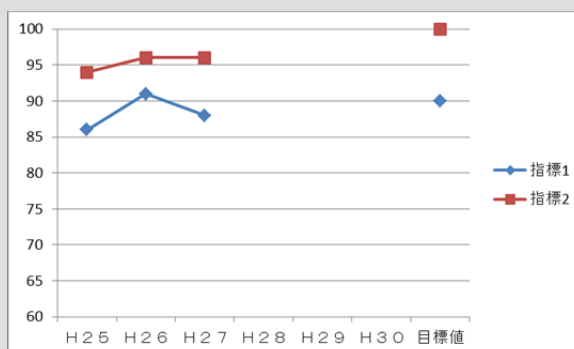
1-4-2 情報教育の推進

多様な情報手段の特性を理解し、情報を適切に活用できる能力を育成するために、発達段階に応じた情報教育を推進します。また、情報発信に伴う責任や情報を判断する力を子どもに身に付けさせるため、情報モラルに関する教育を推進します。さらに、学習においては、子どもが意欲的に取り組めるようICT機器を積極的に活用し、学習効果を高めます。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「パソコン、書画カメラ、プロジェクターなどを用いた授業や学習はやる気ができる」と回答する児童生徒の割合	91%	88%	90%
2	「パソコンや携帯電話などの安全な使い方がわかり、自分を守り、他人に迷惑を掛けないように気を付けている」と回答する児童生徒の割合	96%	96%	100%



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。
授業や学習に定着したICT機器をより効果的に活用し、授業や学習の満足度を高めるように努める。

《参考》

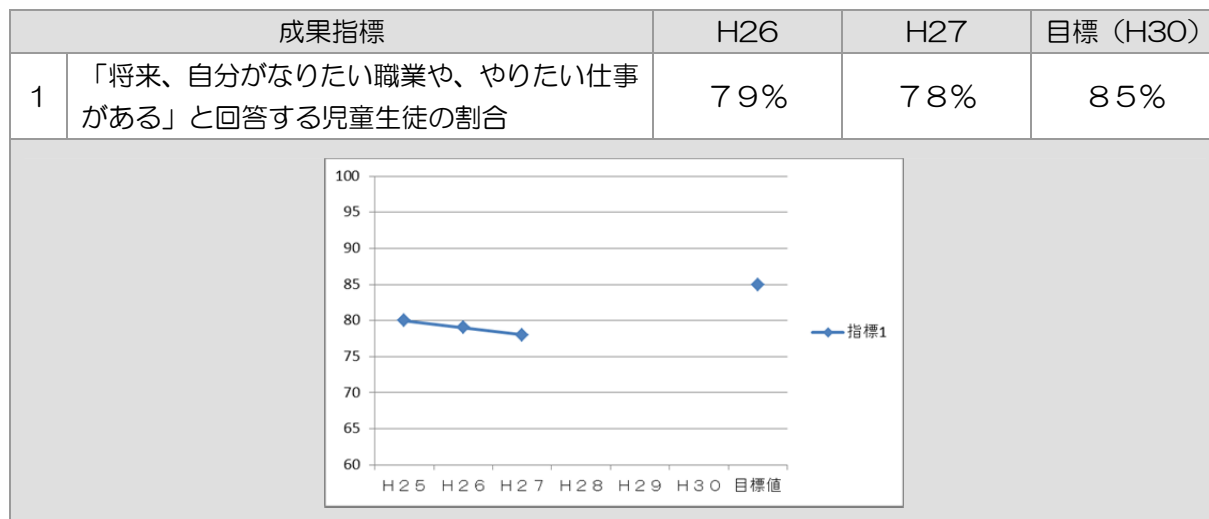
主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
コンピューター教育振興事業	インターネットの利用など、さまざまな学習場面でICT機器の利用が図られるよう、啓発に努める。

1-4-3 キャリア教育の推進

子ども一人一人が、社会的・職業的に自立するために必要となる基礎的な能力や態度を教育活動全体を通じて育成します。

○施策の評価

1. 成果指標



2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきているとはいえない。
学習内容をキャリア教育の視点で捉え直すことが課題である。

3. 対応

小中の連携を促進し、体験活動を含め、発達段階に応じて系統的に学習内容を整理し、キャリア形成の支援に努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三カ年計画の推進)	望ましい勤労観・職業観等を育てるために、キャリア教育を重視した学校づくりを支援する。

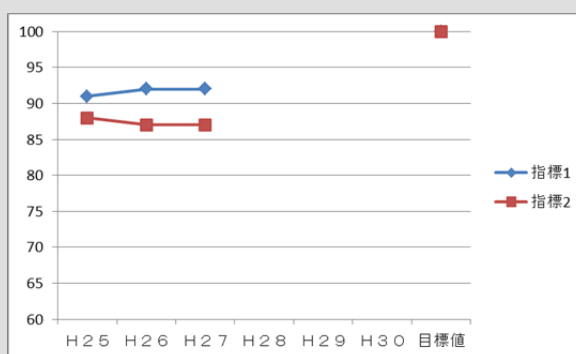
1-4-4 防災教育の推進

東日本大震災の教訓を生かし、防災意識の高揚を図ります。また、災害時における避難行動などに必要となる適切な判断力・対応力を育成します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「災害発生時に、自分の命を守るためにどのような行動をとれば良いか知っている」と回答する児童生徒の割合	92%	92%	100%
2	「災害発生時に、自分の身の回りでどのような場所が危ないか知っている」と回答する児童生徒の割合	87%	87%	100%



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきているが、すべての児童生徒に災害時における避難行動や減災のための正しい知識を身に付けさせることが課題である。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。

「防災教育の日」を一つの軸として、常に保護者や地域の方と協働し、児童生徒の指導に活用できる情報の共有や避難訓練など、より実践的な防災教育の推進に努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
安全・安心な学校づくりの推進 (安全主任研修会)	児童生徒の「生活安全」「交通安全」「災害安全」についての振興を図る。児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、研修会を実施し、効果的で系統的な安全教育を推進する。
防災教育の日	東日本大震災の教訓を生かすため、3月11日を「防災教育の日」として制定し、防災意識を高めるための教育を推進する。

◇施策の方向1-5 日本や郷土市川の歴史や文化を学び、国際
社会の中で生きる力を育む

○重点事業の点検

《施策1-5-1 関連》

事業名	社会科副読本等製作事業
事業概要	教員による郷土に関わる研究会議を開催し、社会科副読本の製作、および、学習指導のあり方の研究を行う。
計画 (具体的な取り組み)	郷土に関わる研究会議を開催し、社会科副読本の部分改訂及び平成28年度配付版指導解説資料の製作と学習指導の在り方についての研究を行う。
実績 (活動及び効果)	郷土に関わる研究会議を8回開催し、社会科副読本の部分改訂及び平成28年度配付版指導解説資料の製作を計画どおり行った。
進捗	B

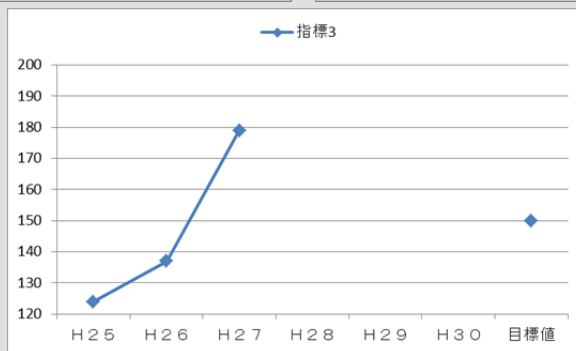
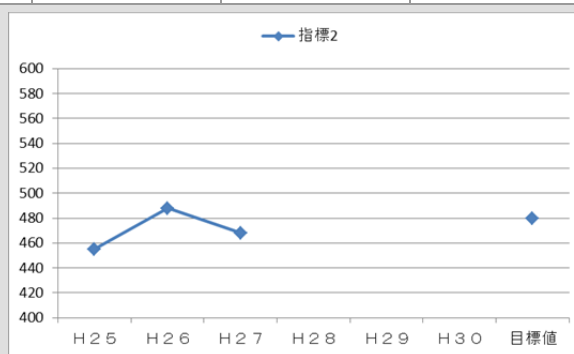
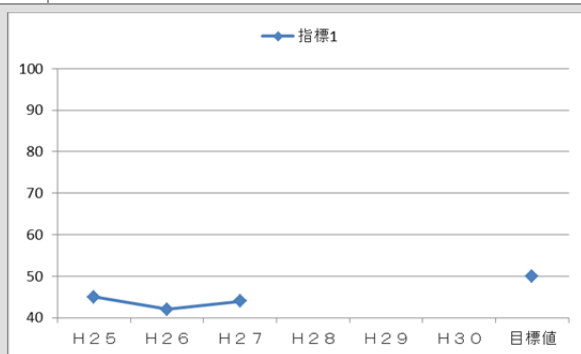
1-5-1 歴史や文化に関する教育の推進

郷土を愛する心と豊かな情緒を培うために、学校、博物館、地域団体などと連携して、日本や郷土市川の歴史や文化を深く理解する機会を充実します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H26	H27	目標 (H30)
1	「市川市の歴史や文化に関心がある」と回答する児童生徒の割合	42%	44%	50%
2	教職員対象の研修会の参加人数	488人	468人	480人
3	学校が、博物館の出前授業・体験活動を利用した回数	137回	179回	150回



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきているが、児童生徒の地域への関心の低さが課題である。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図る。
「わたしたちの市川」(教育センター) や地域素材のより効果的な活用について、教職員に指導・助言していく。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
部活動等地域指導者協力事業	児童生徒の吹奏楽や茶道等への活動欲求に応えるために、地域の指導者の参画を求め、部活動の振興を図る。
教職員等研修事業教育普及事業 (歴史や文化に関する研修)	郷土の歴史や民俗・文化に対する認識を深めるため、教職員向けの研修会を実施する。

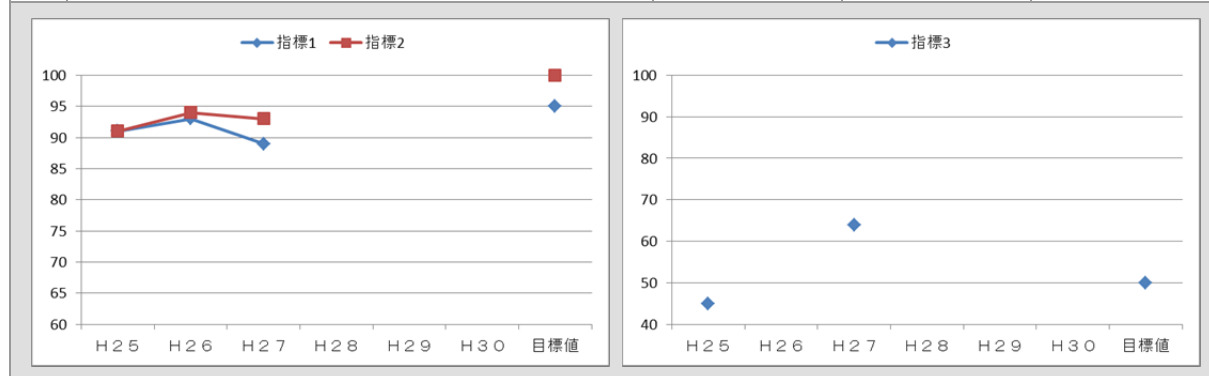
1-5-2 外国語教育・国際理解教育の推進

外国語への興味・関心を高め、外国語を活用したコミュニケーション能力を育成するために、小学校では英語活動などを推進し、中学校では英語の能力の向上を目指します。また、小中学校で連続した指導が行われるよう、連携を強化し、指導内容の充実と体系化を図ります。さらに、異なる文化をもつ人々と理解し合い、協調していく力を育成するために、外国の歴史・文化・生活習慣を学ぶ機会を充実します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標	H26	H27	目標 (H30)
1 「外国語活動の授業が楽しい」と回答する児童<小学校5・6年生>の割合	93%	89%	95%
2 「英語の授業が楽しい」と回答する生徒<中学校1・2年生>の割合	94%	93%	100%
3 英検（実用英語技能検定）3級ないしは英検3級と同等の力を有する生徒の割合	—	63%	50%



2. 施策の現状・課題

施策の実現はおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策のさらなる推進を図るとともに、小学校における外国語活動及び中学校における英語の授業において授業の満足度が向上するように教職員の指導力向上を図る。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
小学校外国語活動推進事業 (小学校外国語活動指導員の派遣)	小学校へ英語能力を有する外国語活動指導員の派遣をし、外国語活動の推進を図る。
外国語指導助手派遣事業	英語を母国語とした外国語指導助手を各中学校に派遣し、英語学習に対する意欲及びコミュニケーション能力の向上、国際感覚の育成を図る。
中学生海外派遣事業 (派遣・受入事業)	市立中学校の生徒をドイツのパートナーシティ・ローゼンハイム市へ派遣するとともに、ドイツからも生徒を受け入れ、国際感覚豊かな青少年を育成する。